(様式 1-5-2)
(2024.12)

指針に基づく情報公開

放射線影響研究所では、個人情報保護法に基づく研究倫理指針を遵守し、この研究については、対象となる方のお一人ずつに直接説明を行い同意を得る代わりに、情報を公開することにより試料・情報を利用させていただいています。

研究成果は学会や学術誌等で発表されますが、お名前、ご住所などの情報が公表されることはありません。

ご自身または代諾者等が、試料・情報をこの研究に使用してほしくないと思われる場合、研究計画の概要をご覧になりたい場合、その他研究に関することは「問い合わせ先」へご照会ください。ご照会された場合でも、なんら不利益を受けることはありません。

研究計画書番号	RP-S2-20	研究期間	2020 年～2027 年まで
研究課題名	血液悪性疾患罹患の放射線リスク		
研究責任者（所属）	馬淵清彦（米国国立がん研究所）		
放影研での研究責任者	坂田　律		
試料・情報の利用目的及び利用方法	利用目的： 放射線に被ばくすることにより急性リンパ芽球性白血病、慢性骨髄性白血病の頻度が上がることはよく知られています。慢性リンパ性白血病は、近年原爆被爆者とは別の集団において放射線被ばくとの関連を示す結果が示されていますが、原爆被爆者においてははっきりとした結果が得られていません。ホジキンリンパ腫は、これまでの研究で原爆被爆者の男性では被ばくした放射線量に従って頻度が上がる関係がみられていますが、女性ではそのような関係はみられていません。また、リンパ腫は分類方法が時代によって変わっており、骨髄異形成症候群のように近年悪性疾患として登録されるようになった血液悪性疾患もあります。このように血液悪性疾患と放射線被ばくとの関連は病気のタイプによって異なり、解明されていないことが多いため研究を行います。 利用方法： 寿命調査の対象者のうち、放射線被ばく線量が推定されている方を対象とします。これまでに行われた 3 つの研究(リンパ腫再検討研究、1950 年-2001 年の血液悪性疾患罹患研究、1958 年-2009 年の固形がん罹患率研究)のデータを統合して作った、1950 年-2009 年の血液悪性疾患罹患についてのデータを使い放射線被ばくとの関連を調べます。診断名が 3 つの研究の間で異なり、どの診断が正しいか判断に困る症例については病理学者が放影研に保管されている資料または試料を再検討して診断名をつけます。解析においては、市、性別、年齢などの影響も考慮します。本研究では、放影研で用いる個人識別番号をさらに他の番号に置き換えることにより個人情報を仮名加工情報としたデータを使用します。放影研の個人識別番号と置き換えた番号の対応表は、放影研疫学部で施錠できる保管庫に安全に保管し、外部研究者は使用できません。		

他の機関への提供の有無	☒有（提供先機関：米国国立がん研究所、ヒロソフトインターナショナルコーポレーション）
	□無
利用し、又は提供する試料・情報の項目	寿命調査データから、市、性、生年月、生死の別、死亡年月、爆心地からの距離、推定線量（個人が識別できないよう数値は丸める）、被曝地点の人口密度、剖検の有無。 広島・長崎の地域がん登録(広島県市・長崎県の事業)および腫瘍組織登録(広島県・長崎県医師会事業)によりすでに取得しているがんの診断情報(部位、形態、診断年月、がんの診断順序、情報源。 リンパ腫再検討研究から、部位、形態、診断年月、がんの診断順序、リンパ腫の分類番号、診断方法)。 2001 年までの血液悪性疾患罹患研究から、部位、形態、診断年月、がんの診断順序、診断コード。 放影研に保管されている研究対象症例の病理試料および資料。 2020 年 7 月 1 日から、利用・提供を開始しています。
利用する者の範囲	米国国立がん研究所 　馬淵清彦 　カフーン・エリザベス 　マイ・ジム 　モートン・リンゼイ 　千原　大 ヒロソフトインターナショナルコーポレーション 　プレストン・デール 広島赤十字・原爆病院 　藤原　恵 放射線影響研究所 　坂田　律 　吉田稚明 　スポスト・リチャード
試料・情報の管理に責任を有する者の氏名又は名称	馬淵清彦（米国国立がん研究所）
統括個人情報保護管理者	放射線影響研究所　業務執行理事　児玉和紀
問い合わせ先	【研究担当者】 氏名：坂田　律 公益財団法人　放射線影響研究所　疫学部 住所：広島市南区比治山公園 5 番 2 号 TEL：082-261-3131